

氏名	森 岡 栄
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1643 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	Adriamycin による腹腔滲出細胞（主にマクロファージ）の抗腫瘍性について
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋      教授 赤木忠厚      教授 栗井通泰

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

マウスにAdriamycin（ADM）を腹腔内投与（i.p.）し、その腹腔滲出細胞（PEC）の抗腫瘍効果と作用機作について検討した。ADM i.p.後翌日のPECはin vitro, in vivoにおいて抗腫瘍効果がみられた。この効果はプラスチック付着細胞に強くみられ、マクロファージ（Mφ）阻害剤であるカラゲナン前投与にて減弱したことより、エフェクター細胞は主にMφと考えられた。このPECを超音波破壊処理した上清中にはADMが存在し、増殖抑制活性はみられたが殺細胞活性は示さなかった。蛍光顕微鏡にて、このPECは細胞質内にADMと思われる黄色の蛍光物質を保有し、標的細胞と混合培養すると標的細胞の核が著しく黄色に輝くものが観察された。以上より、ADM i.p.投与の場合、ADMの抗腫瘍効果には直接効果の他に腹腔Mφを介在する効果があり、その効果はMφが貪食したADMを標的細胞内へ転送することによると考えられた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、マウスの腹腔内にAdriamycinを投与し、その腹腔内滲出細胞に関する抗腫瘍効果とその機序について、in vivo, in vitroに検討した結果、重要な知見を得たものであって、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。